

# 公開質問状への増田かおる の回答

1. まず、候補予定者ご自身について伺いたします。

① なぜ、松戸市議会議員選挙に立候補されるのですか。

A:松戸市は、3・11東日本大震災により発生した福島原発事故で放射能汚染のホットスポットになってしまいました。私は子どもたちを被ばくから守ろう、健康診断をしてほしいと活動を続けてきました。行政と議会に働きかけましたが、子育て世代、特に母親たちの意見が伝わらない議会に驚きました。私はその意見を伝える立場になりたいと立候補を決意しました。

② 当選したら真っ先に取り組むことを教えてください。

A:原発事故から3年半が過ぎて、福島では子どもたちの甲状腺異常が見つっていると伝えられています。まず、子どもたちの甲状腺エコー検査や血液検査・心電図検査などの健康診断が継続できる体制づくり、保養の仕組みづくりをめざしたいと思います。

③ 4年間の任期中に必ず実現させたいことを教えてください。

A:

- ・ 子どもへ甲状腺エコー検査などの健康診断の拡充、保養の仕組みづくり
- ・ 子どもと高齢者の居場所づくり
- ・ 子育て世代への援助（子どもの貧困を含めて教育費援助）
- ・ 長崎、広島への子ども（中学生だけでなく小学生も）平和大使の拡充
- ・ 「エネルギーの地産地消」への仕組みづくり
- ・ 議会全体で取り組む議会報告会の開催
- ・ 議会基本条例への市民参加条項の追加

④ 当選された場合、どちらの会派に所属するのか、または無所属で活動されるのか、意思をお聞かせください。

A:同じような政治信条をお持ちの方が当選されて、会派を組めるようなら検討します。今の議会では会派に所属しないと議員活動に不利になると思われるからです。

⑤ 市民の声に耳を傾け、市民に分かり易く説明し、市民の思いを実現すべく行動する、というような「市民に寄り添う」という姿勢が重要だと考えて

おります。より多くの「市民に寄り添う」ために、何か行動される予定があれば教えてください。

A:できれば議会全体での、全ての市民対象の議会報告会の定期開催によって、市民からのご意見・政策提言をいただきたいことです。それまでは、会派や個人的にでも、市内各地域で報告会（ぎかいカフェ等）を開き、市民のみなさんとの交流を図ります。

⑥ 市議会議員に必要な能力はなんだと思いますか。それをこれからの活動にどう生かしていくかと併せてお答えください。

A:市政に関して、専門的知識を持っている市民や市の職員の方の意見をよく聞き、自分なりの調査をして判断する能力が必要だと思います。私の知識・能力には限界がありますが、私を支援していただいているたくさんの仲間の中には、それぞれの分野で専門的な知識を持っている人、専門的な部署の職員と交流のある方がいます。そうした方々の助言と子育て世代のお母さん・お父さんたちの意見をよく聞いて議員活動をしていこうと思います。そのために、職員を迎えての「出前講座」の開催を積極的に取り組みます。

2. 次に、議員観・議会観についてお伺いします。

① 松戸市議会議員の適正人数は何人とお考えですか。理由と併せてお答えください。

A:松戸市には48万人の多様な価値観を持った市民がいます。なるべく多くの議員が議会で活動する方が市民のニーズに応えることができると思います。議会経費との兼ね合いですが、ボランティア議員として、報酬を少し下げても、議員数を増やすべきだと思います。当面でも50人程度の議員が必要だと思います。

② 「議員報酬は議会での拘束時間等、議員活動を実際に行った時間×時給にしてはどうか」という議論がありますが、いかがお考えですか。

A:「議会」に出席するだけでは、市民との関係が保てません。多くの市民と交流することが不可欠です。時給にするのは難しいと思います。

② 委員会前に会派で賛否を決めていることで、議会での議論が建前になっているように感じます。議会をより建設的な場にするため、委員会前に会派

で賛否を決めることを止め、委員会での議論を基に会派の合意形成を図るようにして欲しいと考えております。如何ですか？

A:その通りだと思います。「会派拘束」とか言って、会派内で多数決を取って結論をだし委員会に臨むのは市議会議員制度上望ましくないと考えています。

③ 建設的ではがらみのない議論を行うため、会派制を廃止する議会も現れていますが、「会派制の廃止」について、いかがお考えですか。

A:今は、会派を組まない議員は不利です。「会派制度」のメリット・デメリットを明らかにし、廃止した自治体も視察して判断したいと思います。

④ 議案に対する個々の賛否について、記録に残す、または公開することへのお考えをお聞かせください。

A:個々の議員の賛否は、「議会だより」・ホームページで公開するのが当然だと思います。

⑤ 委員会についても、本会議同様にインターネットおよび録画中継を行ったり、議会運営委員会を含むすべての委員会を傍聴可能にすることについて、是非をお聞かせください。

A:民主主義の必要経費だと考えて、全ての委員会のインターネット中継を実現すべきです。議会運営委員会は現在、請願・陳情部分だけが傍聴可能です。全てを市民に公開する必要があります。

⑦ 議員を客観的に評価するしくみについて、アイデアや先進事例があればお聞かせください。

A:

- ・ 個々の議員の議案・意見書・請願・陳情についての賛否を公開する。
- ・ 議員の質問回数と討論回数を公開する。
- ・ 議会だより・ホームページで、個々の議員の議会報告やホームページをお知らせする。またはリンクする。
- ・ 政治活動費のホームページでの公開（領収書も含む）。
- ・ 議員視察報告書のホームページでの公開。
- ・ 議員提案の意見書への参加の有無を公開する。

3. 次に、市政をとりまく環境や個別の政策課題への考えをお伺いします。

① 経済的・家庭的な理由等により、望んだ進学ができない子どもを減らし、平等にチャンスを与えられるような環境が求められていると考えますが、具体的な方策があればお聞かせください。

A:

- ・ 「塾」へ行けない子どもたちへの、学習支援システム作りと拡充。
- ・ 給付型の奨学金制度を拡充する。
- ・ 高校の授業料免除を拡大する。

② 児童・生徒の学習習熟度により教員を評価する制度を設け、意欲的な指導の一助とする策について、お考えをお聞かせください。

A:学校教育に「成果主義」を取り入れることには反対です。

③ 保育園を選ぶための客観的指標として、利用者・第三者評価の制度を設けることについて、お考えをお聞かせください。

A:利用者、第三者の意見も大切ですが、子どもの立場からの判断ができる制度を考えたいと思います。子どもたちが生き生き育っているかどうかだと考えます。

④ より障害者が暮らしやすいまちを実現するため、提案される施策があれば教えてください。

A:障害当事者の意見を取り入れることだと思います。松戸市の各種の審議会・委員会に必ず障害当事者かその代弁ができる人を加えることが必要です。

⑤ ノーマライゼーションについてお考えをお聞かせください。例を挙げると、色覚障害者にとっては赤色チョークの板書や、ピンク色の看板が見づらい等、聴覚障害者にとっては災害時避難所での情報提供が音声のみで行われるということに不便を感じる等、障害者本人でしか気づき得ない生活上の支障があります。

A:一部の人のために税金が使われているなどの考えは止めて、だれでもが暮らしやすい松戸市をつくるために、少数の人たちの意見も積極的に取り入れてまちづくりを進めたいと思います。

⑥ 松戸市は周辺市よりも生活保護受給者数・保護費ともに高い水準にあります。この水準についての是非と、今後の方針についてのお考えをお聞かせください。

A:東京に近い松戸市では、物価も高く生活費がかさむことは理解できます。  
丁寧な暮らしのケアと仕事を探せる親切な支援、そして公共的な仕事を優先的に斡旋することも考える必要があります。

⑦ 少子高齢化への対策として、提案される施策があれば教えてください。また「無駄を削減する」以外の財源確保についてもご提案ください。

A:子育て世代が安心して暮らせるシステムをつくること。例えば、保育システムの多様化（障害児や病児保育等）、小学生の放課後の保障（放課後児童クラブの拡充・放課後キッズクラブの全校化）、中高生の居場所づくり（児童館・青少年センター・図書館の整備）、高齢者による見守り隊（通学路や遊び場の見守り・挨拶での交流）高齢者による学習支援システム、高齢者による居場所の提供・管理など。

A:「無駄の削減」以外の財源確保は、税収の増加を図ること。大口の税収より、48万人の消費者がいる松戸市で、市内での買い物・市内業者への発注・市内生産物の購入で市内の経済の活性化をはかることを、市民がいっしょに楽しくできるような仕組みづくりを考えたいと思います。

⑧ 「すぐやる課」について、今後の方針と併せて、存続の是非をお答えください。

A:日本中で有名な「すぐやる課」です。現在の状況では存続することの積極的な意味はないと思われれます。残すとしたら、ワンストップサービスの拠点にし、「すぐやる課」に相談に行くと、たらい回しされることなく、関係各所の担当者を集めてくれて、一ヶ所で用事が済むようなサービス体制をつくることだと思います。

⑨ 市立病院の経営を改善するための方策があればご提案ください。

A:経営状況・運営状況を市民にわかりやく公開すること。医療サービスの質をとるのか、少しの赤字も出さない方を重視するのか、市民が判断できるような情報を提供することだと思います。

⑩ 市内で起業家が活躍するための方策があればご提案ください。

A:行政が行なっている事業のうちで、民間でできる事業は民間に任せるシステムづくりです。我孫子市には一部事例があります。松戸市に増えている空き家を有効活用するためのコーディネート制度もあると思います。

⑪ 市内の商業圏の充実について、近隣自治体のように大型ショッピングモールを誘致するなどの大規模な方策を取るべきか、それとも他の方法によって充実を図るべきか、現状の維持を図るべきか、方策をご提案ください。

A: ショッピングモールはもう時代遅れです。子どもから高齢者まで自分で歩いていくことができる商店街が各地域に必要です。こうした商店街がつかれるように地域住民と商店街の人たちの懇談・交流が必要です。新松戸で開催されている「まちゼミ」なども具体的な取り組みではないかと思いません。

⑫ 松戸市に住民投票条例は必要だとお考えですか？理由も併せてお答えください。また、必要だとお考えの方は、具体的にどういった内容にすべきか、お聞かせください。

A: 松戸市では、市立病院建て替え問題の住民投票が議会の反対で実現しませんでした。市長選の中に紛れて問題点が不明確なままで推移し、建て替えが遅れた経緯があります。また、条例案を議会が否決された経過もあります。私は、住民投票条例をつくって、重要課題については市民の直接の判断を聞くことができるようにすべきです。18歳・19歳の若い世代、外国籍の市民にも投票権を与える条例を作りましょう。

4. さいごに、松戸市についての思いをお伺いします。

① 松戸市の一番の魅力はなんだと思いますか。

A: 交通の便が良く、気候が穏やかで、災害も少ないし治安も良く暮らしやすいのが松戸市の魅力です。だからこの狭い松戸市に48万もの人々が集まってきたのだと思います。集中してたくさんの施設（学校もお店も病院も公園も）があります。「歩いて暮らせるまち」を創りたいと思っています。

② 中長期的に見て、松戸市政における最も大きな課題はなんだと思いますか。解決策の提案と併せてお答えください。

A: 48万人のまちは、ひとまとめで考えることが困難な課題が多くあります。20ある中学校区か、44ある小学校区かでコミュニティを創ってはどうかと思います。それぞれの地域の課題はちがっています。課題を話し合う「コミュニティ会議」のようなものをつくれなかなと思います。市政協力員制度は機能していません。地域をどう分けるかについてから、町会・自治会単位で話し合いを進めていければと思います。その段階で多くの市民の意見が集まります。そして、町会再編や学区の問題、地区社会協議会

の役割の見直し、民生委員や児童委員などの位置づけ、自主防災組織や消防団の役割、NPOや市民団体の役割の認識などまちづくりのリニューアルを考えていきましょう。